

修了生インタビュー

歴史ある銀座ギャラリーを革新する 100年企業、4代目の若き挑戦



2014年度修了生 りきひろ 川崎 力宏さん

川崎ブランドデザイン有限公司 代表取締役 ディレクター
大手ハウスメーカー勤務を経て、家業である九州の建設会社を継ぐ既定路線から一転し、独立。2013年、銀座に残る近代建築を取得し、ギャラリーを開廊。以来、商業地では珍しい美術館スタイルにこだわった展覧会を50回開催。2015年、法政大学大学院イノベーションマネジメント専攻修士課程を修了。中小企業診断士として、ブランディングを念頭に企業や作家をキュレーションし、銀座ギャラリーの新しい未来を切り拓こうと活動している。
銀座レトロギャラリーMUSEEのホームページはこちら
<http://kawasaki-brand-design.com/>



老舗建設会社の4代目御曹司として生まれながら、上京、独立することを選んだ川崎力宏さん。銀座の文化と歴史を受け継ぐ、銀座レトロギャラリーMUSEE(ミュゼ)の主宰者として、さまざまな展示会のプロデュースや、若手芸術家の支援を精力的に行なっています。今年は創業100周年(1917年大正6年創業)、銀座の都市景観をテーマにした大々的な記念展を開催。多くの観客を動員し、成功させました。そんな川崎さんのターニングポイント、法政大学大学院イノベーションマネジメント専攻の学びについてインタビューしました。

大学院進学を目指した経緯を教えてください。

実家は、100年続く九州では老舗の建設会社でした。4代目として事業を継承するため、大学卒業後ハウスメーカーで修行しました。私が26歳の時、父が病に倒れ亡くなったことを契機に、生活が一変。税金のことなど、それまで触れることがなかった経営に関する知識に加え、伝統を受け継ぐことの重さなどをいきなり背負うことになったので、とても大変でした。さらに大変だったのが、社風と私の考えに軋轢が生まれてしまったことでした。老舗で保守的な会社でしたから、私のような改革志向の経営はなかなか受け入れてもらえませんでした。100年の伝統を継承しつつ、改革していくことの難しさを痛感しました。私が発案したプロジェクトでうまくいったものもあつたのですが、それでも保守的な社風の中で受け入れてもらえるきっかけにはなりません。九州の経済界のお客様を裏切るような想いで、何の後ろ盾のない中独り上京、独立。悔しさと反骨精神とで、勉強しなくては行けないと強く感じたことが大学院進学を目指した大きなきっかけです。MBAの学びを通じて私の考えが間違いではないと証明したかったのです。

法政大学大学院イノベーションマネジメント専攻を選んだ理由を教えてください。

大学院進学にあたって、MBAが取れる大学院についていろいろ調べました。当大学院はMBAと中小企業診断士の資格が一緒に取れるので、非常に魅力的だと感じました。また、一年で卒業できるのも大きな理由でした。限られた一年だから

こそ、事業をある程度スタッフに任せて勉強に専念できました。ですが、私が欲しかったのは肩書きだけではなく実践的な力だったんです。目標は、銀座という商業地で新しい事業を軌道に乗せること。必要な知識や実務的な力を身につけるにはここしかない!と思い、イノベーションマネジメント専攻を選びました。



印象に残った授業やエピソードがあったら教えてください。

高木先生の中小企業総合経営論という授業がとても印象に残っています。事業継承に造詣の深い高木先生が、『川崎さんの事業継承について考えましょう!』と、通常のケーススタディから離れて、私の事例を取り上げて下さいました。同じ授業を取っている同級生たちが真剣に考えて意見を出し合ってくれたのも本当にうれしかったです。さまざまな境遇の同級生と事業継承について意見交換できたのは、今でも糧になっています。リテールマネジメントの並木先生にも大変お世話になりました。よく覚えているのが、事業継承に関して後悔を抱えていた私に、『負の歴

史をあまり引きずらず、あなたらしく前を向いて頑張りなさい。辛かったことは、大学院で終わりにしよう』と言ってくれたことです。その言葉が、新しい道に進む大きな力になりました。

現在の仕事内容について教えてください。

戦前から昭和通り沿いに残る近代建築を保存し、『銀座レトロギャラリーMUSEE(ミュゼ)』を、銀座ギャラリー文化の新しいスタイルで継承すべく運営しています。大手企業の展示会、全国の中小企業とのタイアップ展示、社会人として自立しながらアートを続ける作家の個展をサポートしています。従来型の作品販売、場所貸しだとよく勘違いされるのですが、全く違います。学芸員を交え、美術館スタイルの展示会のキュレーションを重要視しています。アートを換金するモノとして扱ったり、内輪で盛り上がるのでは商業地、観光地の良さを享受できません。国内外から多くのお客様が集まる銀座らしく、開かれた展示会を、企業や作家さんと二人三脚で目指して創り上げています。



現在の仕事を選んだ理由を教えてください。

私の生い立ちや経験上、『歴史と企業のつながりを大切にしたい』という思いは常にありました。そのために、まずは地につけて、死ぬまでできる仕事を見つけないと思いました。新しいものも古いものも大切にしていって銀座という街がとても好きだったので、ここでギャラリー経営をしようと決めました。レトロな建物から新しい作品を発信していくことこそ、自分がやりたいことだと確信したのです。もともと美術はすごく好きでしたし、実家の事業を通じて、建築家や芸術家と仕事をする楽しさも知っていました。自分が好きなアート、そして、伝統を受け継ぎながら新しいことにチャレンジしていくというスタイルを融合させたのが、ギャラリー経営です。



イノベーションマネジメント専攻での学びで役に立ったのはどのようなことですか？

同級生に、『感覚だけで生きてちゃダメ!』とたびたび叱られていました。感性に自信はあったのですが、論理的思考力が弱いと

いう自覚がありました。弱い部分はイノベーションマネジメント専攻の授業の中でかなり鍛えられたと思っています。ロジカルに考えて説明することを、大学院のカリキュラムを通じて徹底的に叩き込まれました。例えば、作家の情報を整理しパンフレットやプレスリリースで説明するには、ロジカルな思考力が必須です。大学院で学ばなければできなかったことの一つです。他には、「ビジネスとして成り立たせるために売り込む」と、「若い作家を助ける」との両立や工夫ができるようになったのも大学院で学んだおかげです。何よりも、主観的ではなく客観的に自分を眺めることができるようになりました。

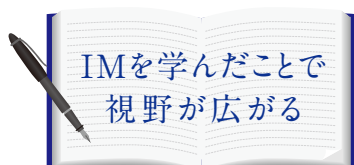
これから、どのように仕事を発展させていこうとお考えですか？

昭和7年竣工の近代建築をフル活用して、ニュースを作って行きたいです。大学院の修士論文(プロジェクト)で、岩崎先生のご指導のもと真剣に取り組んだことです。いかに空間をメディア化させ、人を呼び込むか。売れやすい作品を並べ販売するのではなく、今の時代を捉えた現在進行型の美術展で話題をさらいたい。準備が大変ですが、インスタレーションにこだわり、この瞬間しか楽しめないコンテンツを企画していきます。自分の世界にこもりがちな作家さんを、光の当たる舞台にあげることで一緒に世界観を作り、コトづくりをしていければと。また将来の国際展開を見据え、今年ニューヨークにも拠点を構えました。こちらも歴史文化財で、建築空間にこだわり選定しました。ビジネスでは、企業文化そのものをアーティスティックに紹介する新しいタイプのプロモーションに積極的に取り組んでいきたいです。



最後に、イノベーションマネジメント専攻を目指す人へ一言お願いします！

いい意味で、とてもフランクな大学院だと思っています。在学中も自由度が高いです。だからこそ、大学院で学んだことを生かすも殺すも本人次第です。自分に可能性を見いだせる人だったら、大学院でさまざまな視点や知識を身につけて、卒業後ののびのび働くことができますと思います。私自身、いろいろな経験をして、自分の弱みを知り、大学院で足りない部分を補い、そして現在とても楽しく仕事をしています。一言で言えば、『能力を整理して、増幅してくれた大学院』でした。大事なのは卒業後です。卒業後を見据えて、自らアクションを起こし、自分の力で稼いでいきたいと考えている人や、そうなりたいと思っている人にはとてもフィットする大学院だと思います！



20代のつらい経験を力に換え、ギャラリーの主宰者として、また銀座の活性化を担う若手経営者として目覚ましい活躍をされている川崎さん。美しいものにたくさん触れてこられた感性に、大学院で学んだ理論を融合させ、独自の事業展開、情報発信をしておられる姿に感心させられました。日本のみならず、世界も視野に入れて活動が続けて行かれるとのこと。今後のご活躍が楽しみです。